

平成27年度 第1回千葉県スポーツ推進審議会 会議録

開催日 平成27年7月7日(火)

時間 15時～16時30分

会場 千葉県庁本庁舎1階

多目的ホール

(千葉市中央区市場町1-1)

<出席委員> (敬称略50音順)

荒川 昇 高坂 俊介 高橋 直子 中村 恭子 浪越 一喜 畑佐耕一郎
花岡 伸和 柳川 尚子

<オブザーバー>

越川 均 平島 昭一

<出席事務局職員>

千葉県教育庁

健康福祉部 健康づくり支援課 地域健康づくり班
障害福祉課 地域生活支援班
高齢者福祉課 生きがい活動推進班
商工労働部 観光企画課 観光企画室
県土整備部 公園緑地課 県立公園室
企画管理部 教育政策課 教育立県推進室
教育振興部 生涯学習課 学校・家庭・地域連携室
学校安全保健課 給食班
指導課 教育課程室
体育課

教育次長 梅木 弘之

主事 蒲生 忠明

主事 市原 一樹

主査 伊藤 恭江

観光推進委員 池田 清則

副主査 板垣 和子

主査 岡松 英雄

副主幹 菅谷 忠由

指導主事 清水 孝

指導主事 松井小百合

課長 山崎 成夫

副課長 川崎 浩祐

副主幹 堀切 健一

副主幹 岩埜 直史

主席指導主事兼班長 牧田 正彦

指導主事 林 俊則

指導主事兼班長 新村 浩章

指導主事兼班長 加藤 俊文

副主幹 丸山 茂喜

指導主事 瀧口 正勝

指導主事 中村 正浩

指導主事 田口 富一

指導主事 角田 淳

指導主事 宮内 博史

指導主事 堀江 俊介

ちばアクアラインマラソン準備室

同

学校体育班

同

競技力向上班

社会体育班

同

同

同

同

同

同

同

<次 第>

- 1 開 会
- 2 委員・オブザーバー紹介
- 3 教育次長挨拶
- 4 議 事

〔報告事項〕

- (1) 第70回国民体育大会及び第15回全国障害者スポーツ大会について
- (2) 「東京オリンピック・パラリンピックアスリート強化・支援事業」について
- (3) 世界少年野球大会千葉大会について
- (4) 「青木半治杯国際千葉駅伝」の大会終了について
- (5) 平成26年度「千葉県体育・スポーツ推進計画」の点検・評価について
- (6) 平成26年度第2回「千葉県スポーツ推進審議会」における委員からの意見

〔審議事項〕

- (1) 平成27年度「千葉県体育・スポーツ推進計画」重点施策推進計画（工程表）について
- (2) 平成27年度「県民の運動・スポーツに関するアンケート調査」の実施について
- (3) オリンピック教室の展開について

- 5 閉 会

スポーツ推進審議会 議事録

事務局 本日は御多用のところ、御出席いただきありがとうございます。

会の進行を務めさせていただきます、体育課副課長、川崎と申します。どうぞよろしくお願ひします。

本審議会への委員の皆様の出席は8名であり、2名の委員の方から所用のため欠席する旨の申し出がありました。

事務局 それではただ今より、平成27年度第1回千葉県スポーツ推進審議会を開会いたします。

本審議会の成立につきましては、千葉県スポーツ推進審議会条例第5条第2項に規定されております、「半数以上の出席」と言う条件を満たしておりますので、本審議会は成立いたしますことを申し上げます。

事務局 次に、審議会委員のみなさまを紹介いたします。別紙を御覧ください。委員のみなさまは、任期が2年となっているため、昨年度と同じ方々です。本日は、名簿をもって、紹介に代えさせていただきます。

続きまして、今年度新たに、オブザーバーに御就任いただいた、お二方を紹介いたします。

千葉県高等学校体育連盟会長、越川均、八千代高等学校長です。

千葉県小中学校体育連盟会長、平島昭一、館山市立第一中学校長です。

委員並びにオブザーバーの皆様、よろしくお願ひいたします。

事務局 続きまして、千葉県教育庁、梅木弘之教育次長より御挨拶を申し上げます。

次長 本日は、御多用のところ、委員の皆様には、平成27年度第1回スポーツ推進審議会に御出席いただきまして、誠にありがとうございます。また、日頃より、本県スポーツの推進に御支援・御協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

6月に開催されたI O C理事会において、幕張メッセを2020年東京オリンピックのレスリング、テコンドー、フェンシングの競技会場とする計画が承認されました。県内で開催されるオリンピックを成功させることは、本県の国際的な魅力を高めるとともに、スポーツの振興、国際交流の推進などの絶好の機会となります。

今後、開催県としてオール千葉の体制で、準備を進めていくこととなります。委員の皆様方におかれましても、それぞれのお立場での御支援・御協力をお願い申し上げます。

さて、昨日までカナダで行われていました「サッカー女子ワールドカップ」において「なでしこジャパン」が準優勝を果たしました。大網白里市出身の宮間選手、ジェフユナイテッド市原・千葉レディース所属の山根選手、菅澤選手も見事な活躍をしてくれました。これまでの努力が実を結び、こうした結果につながることは大変うれしく思います。

県といたしましても、トップレベルのスポーツはもとより、県民の皆さんが、健康で活力ある生活を送るためのスポーツ環境を整備することは大変重要と認識しております。

本年は第11次「千葉県体育・スポーツ推進計画」の実行4年目として、事業の点検・評価の結果や、委員の皆様からいただいた御意見を踏まえ、関係部局と連携を図り、各種事業を横断的、総合的に推進していく所存でございます。

また、県民のスポーツに関するニーズの変化、東京オリンピック・パラリンピック開催後の本県の体育・スポーツの姿も見据え、次期、推進計画の策定の準備も進めていく必要があると考えております。

本日の会議では、今年度の「重点施策推進計画」や新たに検討している施策等について御審議をいただく予定となっております。委員の皆様には、専門的な視点からの御指導、御助言をお願い申し上げ、簡単ではございますが御挨拶とさせていただきます。

事務局 それでは、議事に入る前に、資料の確認をさせていただきます。

平成27年度第1回千葉県スポーツ推進審議会の次第及び名簿、座席表が各1部ございます。

「資料1」は、本審議会を開催するに当たって、根拠となる、スポーツ基本法及び千葉県スポーツ推進審議会条例でございます。

「資料2」は報告事項の冊子です。また、「別添資料」として、平成26年度千葉県体育・スポーツ推進計画の点検・評価報告の冊子がございます。

「資料3」は審議事項に関するものです。「3-1」、「3-2」、「3-3」、「3-4」と4つございますので、御確認ください。

過不足がございましたら、事務局にお申し出いただければと思います。

事務局 続きまして、議事にうつりますが、議長につきましては、慣例により、荒川会長をお願いいたします。荒川会長、よろしくお願いいたします。

【報告事項】

議長 それでは、次第に沿って、議事を進行させていただきます。まずは報告事項です。6点ございます。事務局、お願いします。

事務局 体育課の山崎と申します。よろしくお願いいたします。座って説明をさせていただきます。

まず「資料2」を御覧ください。はじめは、第70回国民体育大会及び第15回全国障害者スポーツ大会についてです。1ページから4ページを御覧ください。

本年は、和歌山県で開催されます。会場や大会日程など掲載してありますのでご参照ください。また国体関係行事の予定もまとめてあります。今年度の関東ブロック大会、一部競技が既に始まっておりますが、中心会期は8月21日から埼玉県で行われます。ここで勝ち抜きますと、9月から和歌山県で開催される本国体ということになります。

事務局 続きまして「東京オリンピック・パラリンピックアスリート強化・支援事業」について、説明します。

5ページを御覧ください。

昨年から東京オリンピックに向けジュニア選手の強化に取り組んでおりますが、新たにパラリンピックに向けた障害者アスリートの強化も加え、事業を開始しているところでございます。

オリンピック部分については、昨年と同様ですので説明は省略させていただきます。

パラリンピック部分については、東京パラリンピック実施予定22競技を対象としており、今年度12歳以上で競技団体から推薦を受けた選手を選考し強化指定選手とし、支援をしております。オリンピック部分同様に、国内外の遠征や強化合宿、競技用具の整備等に助成してまいります。

パラリンピック部分では、選手の掘り起こしとしまして、各競技団体が計画いたします競技体験会にも助成してまいります。

また、今年度の指定状況は、7月13日、月曜日に行います特別強化指定選手に対しての、強化指定証授与式で発表いたします。

千葉県から一人でも多く、東京オリンピック・パラリンピックへ出場する選手を輩出できるよう、この事業を推進してまいります。

事務局 続きまして、「世界少年野球大会千葉大会」について説明いたします。資料の6ページから9ページを御覧ください。

本大会は、日本のホームランキング、王貞治氏と、アメリカのホームランキング、ハンク・アーロン氏が、野球を正しく全世界に普及・発展させるとともに、世界の子どもたちの友情と親善の輪を広げようとの趣旨で開催されます。1990年、アメリカのロサンゼルスでの開催を皮切りに、世界の国々から、野球経験のあり無しに関わらず、子どもたちを招待し、野球教室や交流試合を実施しております。

今回は、千葉県での2回目の開催となり、成田市を中心に、8月2日から10日までの9日間、日本を含む16か国から、300人以上の子どもたちが参加予定です。

期間中は、交流行事も行われ、成田山新勝寺参拝や千葉ロッテマリーンズの試合観戦、房総のむら見学、パークゴルフ体験など、日本の歴史や文化に触れる体験も行います。

千葉県として、世界少年野球推進財団や成田市、日本野球連盟と協力しながら、この事業を進め、子どもたちの友情の輪を広げ、国際親善に貢献していきます。

事務局 続きまして、「青木半治杯国際千葉駅伝」の大会終了について説明いたします。資料の10ページを御覧ください。

「千葉駅伝」は、昭和63年12月18日に、第1回大会が開催されました。日本陸上競技連盟、千葉県、千葉市が主催となり、国際大会経験の登竜門として、多くの選手を育成してまいりました。

平成19年度大会からは、男女混合駅伝となり、昨年は11か国、13チームが出場し、千葉県総合スポーツセンターをスタートし、千葉市内をトップランナーが走り抜けていきました。

県民は、世界トップクラスの走りを間近に観戦し、スポーツへの関心及び国際意識を高めてまいりました。さらに、幕張新都心などの千葉の魅力を、全国にアピールする点でも貢献してまいりました。

しかし、近年では、国際大会への出場機会が増加してきたため、千葉駅伝の捉え方が変化してきました。

また、マラソンや駅伝大会の競技日程が過密化する中で、千葉駅伝への選手の参加が難しい状況になってきました。そこで、5月の組織委員会で話し合った結果、平成27年度の大会は開催せず、26回大会をもって終了するという決定がされたことを御報告いたします。

事務局 次は、別添資料を御覧ください。平成26年度「千葉県体育・スポーツ推進計画」の点検・評価報告についてです。

3月17日に開催しました、第2回審議会において、各柱の指標及びそこに紐づく施策についての達成状況について、御報告させていただきました。しかし、一部事業については集計が間に合わないところもございました。また、時間の都合上、各柱の事業の成果と課題については御報告できませんでしたので、詳細について、資料にまとめさせていただきました。御覧ください。

事務局 続いて、昨年度の第2回目の審議会で、委員の方からいただいた御意見に関して、説明をさせていただきます。

「資料2」の11、12ページを御覧ください。

②柱の1についてです。「若い世代のスポーツ実施率が低いことに対する、県の取組」について御質問がありました。

前回、御説明したとおり、総合型地域スポーツクラブの活動が充実するよう必要な助言をいたしました。

今年度の4月には、未設置市であった東金市に新たなクラブが設立されました。また、現在、成田市で設立に向けての準備が進んでいます。今後も、スポーツクラブや市町村の関係者との情報交換などを行い、スポーツ実施率を向上させるように研究していきます。

次に、③柱の2について、「子どもの体力向上のためにも、教員の研修会にプロスポーツの力を活用してほしい」という御意見をいただきました。

高い技術レベルや的確なポイント指導、競技精神を伝達し活用することは、大きな学習効果があります。また、プロスポーツの立場から、学習過程を教員に掲示し、検討することには大変意義があると考えています。今後は、学習指導要領の確実な実践を図った上で、現在進めている「ちば夢チャレンジかなえ隊」などの活動を充実させ、派遣した学校の教員に、有効な指導方法が伝わるように努めてまいります。

次に、④柱の4についてです。「総合型地域スポーツクラブに、ロコモティブシンドローム予防や認知症予防に特化したモデルをつくったらどうか」という御提案をいただきました。

6月に本県で開催した、関東スポーツ推進委員研究大会の分科会において、ロコモティブシンドロームに関する講義と実技講習が行われました。

本県から参加した推進委員が、ここでの成果を各クラブに持ち帰り、新しいプログラムとして企画・運営に反映していけるよう、働きかけていきます。また、情報をいただいた、茨城県の取組については、関係者に問い合わせ、情報収集いたしました。また、千葉県内の状況もあわせて、調査に入っております。今後、集めた情報を各種会議や研修会において周知してまいります。

最後に、⑤柱の5について、「運動への意欲を高めるために、地道な活動をたたえる、表彰に予算を配分してほしい」という御意見をいただきました。

「ほめる」「たたえる」ことは、意欲を高め、運動習慣の継続、定着とつながっていくと考えております。教育委員会の表彰規定を踏まえ、うえて、どのような方法で、ほめ、たたえ、意欲を高めていくのか、検討してまいります。

以上で報告を終わらせていただきます。

議長 　ただいま報告事項を一括してお願いしました。委員の皆さんから何かございますか。

委員 　千葉ロッテマリーンズ高坂です。前回の審議会でプロスポーツチームの活用をしてほしいという話をしました。さっそくそれにあった活動をしていただき、ありがとうございました。「ちば夢チャレンジかなえ隊」ですが、できるだけ多くの学校を回りたくて思っております。よろしくお願ひします。また、各市町村単位では、すでにいろいろと回らせていただいております。千葉市や船橋市など、球場の近隣の都市が中心となりますが、市の教育委員会と連携して学校訪問をやらしていただいております。非常に評判が良くて、船橋市は明日なのですが、教員が集まる授業研究会で、我々のアカデミーのスクールコーチがどのように指導したらいいか教える機会を持ちました。こういった取組をもっと増やせたらと考えております。よろしくお願ひします。

議長 　他にございますか。ないようですので、次に、協議事項に入ります。
事務局から、審議事項について説明をお願いします。

〔協議事項〕

事務局 　はい。それでは審議事項について説明をさせていただきます。

　まずは、「資料3-1」、平成27年度第11次「千葉県体育・スポーツ推進計画」重点施策推進計画（工程表）を御覧ください。

　平成27年度の「千葉県体育・スポーツ推進計画」の関連事業につきまして、本計画に掲げた目標の達成に向けて、平成24年度からの5年間に実施する重点的な取組について、主な事業の工程を示してあります。実効性を高めながら、計画的な事業推進を進めてまいります。

　ここで示しました、各事業の進捗状況については、県民への体育・スポーツに関するアンケート調査の結果や、各柱の指標の達成状況を踏まえ、点検評価を行い、毎年度、取組内容等の見直しを行います。

　続きまして、「資料3-2」、千葉県体育スポーツ推進事業工程表を御覧ください。

　先ほど御覧いただいた冊子に記載された施策の中から、各柱の重点施策事業についてパッケージにまとめ、「千葉県体育スポーツ推進事業」として予算を計上しております。

　また、横断的な事業推進を図るため、ワーキンググループ部会を開催し、複数の部や課、室、班のメンバーが集まり、事業内容について情報交換を行ったり、共通理解を図ったりして、実効性を高めています。

　それでは、具体的な取組について説明いたします。

　まず、柱1の「スポーツ立県ちば推進年間関連事業」では、毎年10月をスポーツ立県ちば推進年間として位置づけ、県民より公募いたしました「スポーツで　元気いっぱい　明日のちば」のスローガンのもと、ふだん運動に親しむ機会の少ない方々へ「情報・場所・機会」を提供し、運動に親しむきっかけづくりを支援してまいります。全県的な取組となるよう、広報活動を展開してまいります。その予算としまして60万8千円を計上しております。

　次に、柱2の、本計画における新規事業として「幼児期における体力づくり事業」では、園長をはじめ、幼稚園教諭など指導者に、幼児期の運動遊びの重要性について理解して頂くため、研修会を開催いたします。昨年からはじめた、保護者を対象にした講習会も実施いたします。その予算として12万円を計上しております。

　また、幼児版家庭教育リーフレットや「幼児期運動指針」の活用にも引き続き取り組んでいきます。

次に、柱4の「総合型地域スポーツクラブ自立支援事業」について説明いたします。平成24年度より総合型地域スポーツクラブ連絡協議会と連携し、クラブ交流大会、「スポネットちば」を開催しております。

この交流大会は、千葉県総合スポーツセンターを会場に、県内全域から総合型地域スポーツクラブが一同に会し、交流を深める大会でございます。今後もクラブの育成・発展への支援を進めます。その予算として47万2千円を計上しております。

また、クラブの定着・発展・充実を支援するために、研修会や情報交換会も開催していきます。

次に、柱5の「プロスポーツ活用連携事業」は、本計画の新規事業としまして、県内で活躍するプロチームをはじめ、トップチーム、トップアスリートと、学校や地域をマッチングさせるしくみづくりに取り組んでいます。

昨年度から、トップ・プロスポーツ活用連携事業として「ちば夢チャレンジかなえ隊派遣事業」として、県内小中学校を対象にトップ・プロスポーツ団体の選手・スタッフを派遣し、体育・スポーツ活動での交流を通して、広く子どもたちに、スポーツの楽しさを体験させています。その予算として50万円を計上しております。

最後に、柱5の2つ目として「県民体育大会サブイベント開催事業」があります。現在、毎年10月に各市町村において、各競技大会が開催されております。しかしながら、全県民を対象とした大会であるものの、大会の認知度、関心度の低さが課題です。

より多くの県民が「する・みる・ささえる」、それぞれの関わりで、県民体育大会の認知度を高め、各競技種目の競技人口の底上げを図ることを目的に、県民体育大会におけるサブイベントの開催を予定しております。その予算として120万円を計上しております。

以上5つのプロジェクトにつきまして、総額290万円を計上しています。これは、昨年度と同額になっております。

続いて、「資料3-3」、「県民の運動・スポーツに関するアンケート調査」実施要項を御覧ください。

「推進計画の点検・評価を行うための指標」と密接に関連するように、アンケート項目を見直しながら実施してきました。本年は4回目ということ、同様の項目を実施することで、集計結果の比較をしやすい利点もあり、アンケート項目については、特に変更点はございません。

実施時期も昨年同様、11月を予定しています。

まずは、審議事項2つについて、説明させていただきました。委員の皆様、御審議、よろしく願いいたします。

議長 事務局から、1つ目の審議事項として27年度の千葉県体育・スポーツ推進計画の重点施策推進計画(工程表)について。2つ目は、「県民の運動・スポーツに関するアンケート調査」の実施について説明がありました。

委員の皆さんから、意見をお願いします。まずは、行程表についていかがでしょうか。

委員 2ページと29ページに関連することなのですが、ホームページの施設のことについてお願いがあります。

千葉県のホームページを見てみますと、プールや総合運動場のような体育施設が載っているのですが、少年自然の家のような野外活動施設が同じページには載っていません。それらは、体育課の範疇でないと思うのですが、県民にとっては、県の施設でスポーツができる場所はどこがあるかと考えますので、同じところにあってほしいし、だめでもそのページから野外活動施設の貸し出しページにとべるようにしていただくと県民にとって親切だと思います。借りやすいようにサイト内を誘導する必要があると思います。

続いて、県立学校体育施設開放についてです。この学校体育施設開放についてもホームページで学校一覧が見られるようになっているのですが、それも学校のホームページアドレスが載っているだけです。県民にしてみると、どこの学校でどんな施設を借りられて、どれだけお金がかかるのか、どこに連絡したらいいのかわからないです。どこの県でも高校の施設を借りるのは難しいと聞いています。千葉県では6～7割が開放しているというデータがありましたが、実際何日、何人が使っているかということは疑問でして、もし本気でスポーツ施設として活用していこうというのであれば、もっとホームページを工夫することが必要だと感じました。

自分が住む近くの高校なら何となくわかりますが、それ以外の高校はあのホームページからではわかりません。スポーツ環境の整備を整えていこうとした時に「新しいものをつくれぬ」というなら、ホームページなどを整え、今あるものを有効に活用すべきだと思います。

議長 ホームページの使い勝手ですか。

委員 体育課のホームページのカテゴリーもまとめた方がわかりやすいと思います。階層奥深く入っていかないと体育施設があることがわかりません。実際に借りようとした時に、最初は、今ほとんどの方がホームページから情報をとりに行くと思うのですが、千葉県の体育のホームページは使いづらく、必要な情報が得られないかなと思います。

事務局 意見を聞いて参考になります。利便性について考えていきたいと思っています。生涯スポーツに関連する施設は、教育委員会が所管しているもの、青年の家などは生涯学習課所管、都市公園などは公園緑地課所管など、様々な部署が所管しています。縦割りではなく、互いにリンクできるような工夫をしたいと思っています。また、県の総合スポーツセンターのホームページの中に、スポーツ情報センターという項目があります。スポーツに関する情報を一括して扱おうということでまだ完成にはいたっていないのですが、その中に市町村の体育施設も含めてデータベースを作ろうという試みもございますので、そちらとも連携しながら進めていきたいです。

議長 資料3-1の行程表のオリンピック・パラリンピックに向けた取り組みの掘り起こしということで、障害福祉課1,500万円の予算で競技組織体制の整備、競技体験会という事業が27年度に入っていますが、これは具体的にはどういうことなのでしょう。

事務局 健全者の競技団体に比べまして、障害者スポーツの競技団体は脆弱な状態です。ですから、組織体制を整備した上で、競技体験会をするなどして、競技にふれあえない障害者の方が障害者スポーツにふれる機会を設け、そこから、運動能力の高い選手を体育課の強化につなげていこうという一連の流れになります。今年度から実施しております。

議長 オリンピック・パラリンピックと併記されるように、障害者スポーツも一般のスポーツと同じレベルですよ。そのような意味で、私も体験したことがあります。障害者スポーツの組織整備が未整備なところがあると感じていますので、そこはぜひ、力を入れていただきたいと思っています。

委員 アンケートの結果をみると、総合型地域スポーツクラブの認知度が8%と非常に低いです。千葉県としても大きな柱としている重要なテーマだと思うのですが、一般の方に知られていないとクラブに入ってスポーツをやろうという人も増えないと思います。学校の先生に理解していただければ、子どもたちに話をしてもらえんと思います。中高運動部指導者講習会などで、実技だけでなく、総合型クラブの情報などを紹介してはどうか。子どもたちに広がらなければ難しいと思います。

事務局 ヨーロッパ型の総合型地域スポーツクラブと日本の学校に根差した運動部活動ということで、大きく異なる成り立ちから今まで融合が図られてこなかったと思っております。しかし、今、新しい動きとしていろいろな連携が進んでおりますので、総合型地域スポーツクラブと中高の部活動の連携というものも今後、可能性としてあるように思います。講習会の中で、そのようなことができるのか、検討していきたいと思っております。

事務局 総合型と小学校では、すでにマッチングを行っております。平成25年度から親子体験イベントを行っており、総合型と近隣の小学校がコラボいたしまして、25年度は5、26年度は7、今年度も7か所、実施しております。その中で広報活動も行いながら、少しでも認知度を上げようと取り組んでおります。

議長 次の県民のアンケート調査についてはどうでしょうか。

委員 児童・生徒用のアンケート調査の問6「体育授業に期待するものは？」というのがあるが、高校生ならともかく、小中の場合、体育の授業は学習指導要領で決められているものなので、この質問そのものがどうなのかと思いました。それからこのアンケートは、子どもたちの「なぜ、できないのか」「なぜ、やれないのか」の原因を知りたいからやるわけなので、問13には「嫌いだから」というものがあると思うのです。なぜ嫌いなのかという理由こそ知りたいなと思えました。逆に、問11、12などは、「好きだから」というものもあると思えます。「なぜ、嫌いになったのか」などの項目を入れることが、体育が好きになる手掛かりがあるのではないかと感じました。

議長 「運動が苦手」と「運動が嫌い」があれば、子どもたちはどちらにつけるか迷うのではないですか。「好きだからやる」「嫌いだからやらない」では、それで終わりになってしまう。その理由を知ることこそ重要ではないでしょうか。

事務局 「運動が好きか、嫌いか」ということについては、問8で聞いています。体育の授業については問4で、傾向を把握しています。継続しているものなので、今年度、すぐに項目は変えられませんが、第12次推進計画の点検・評価の際には、見直していきたいと思っております。

委員 経年だからすぐに変えられないというのは承知しています。以前、私の職場で調査した「運動障害の研究」の際には「子どものときに、学校体育で恥をかいたからやりたくなくなった」という答えが多くありました。なぜ、やらなくなったのかを掘り下げていかないと、子どもたちは運動やスポーツを続けていってくれないと思えました。だから、理由が分析できるアンケートがいいと思えました。

事務局 全国の全ての小5と中2で調査をしています。千葉県では「好き」か「嫌い」かを聞いているが、全国調査では「体育の授業が楽しいか」「できなかったことができるようになる」「運動のコツやポイントがわかる」「友達に認めてもらう」「先生に褒められる」などの調査があります。それを全て入れると大変な量になってしまうので、簡潔にしました。この全国調査も参考にし、調査のあり方を再考したいと思っております。

委員 大人の調査用紙にスペースがあれば、スポーツ庁もできて「健康」や「体力」に注目がされている時なので、身体活動の量を問う設問を載せてはどうでしょうか。健康体力の分野ではよく集めているデータです。例えば、「週150分以上運動をしている」とか「1日、何時間以上座りっぱなし、もしくは寝転がっている」といった身体活動の量・不活動の量を測っているものです。これらを他のデータと比較したり、経年的に見ていくこともできるのではないかと。普段、やっているスポーツを問いかけることも必要ではないかと。

事務局 内容の追加については、柔軟に対応できるものもあると思います。

議長 それでは、最後の審議事項、オリンピックについて、事務局お願いします。

事務局 最後に、オリンピック教室の展開について、説明させていただきます。
まずは、「JOCオリンピック教室」についてのDVDを御覧いただきます。恐れ入りますが、会長、副会長はお席の移動をお願いいたします。

(会長・副会長移動、DVD上映)

事務局 それでは、資料「3-4」を御覧ください。

この事業は、2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた機運醸成や、オリンピック教育の推進を図るために、日本オリンピック委員会と連携しJOCオリンピック教室を実施するものです。

背景としましては、オリンピック開催県の取組として、競技会場の整備や、オリンピック・ムーブメントの推進を求められていることがあります。また、現在の学習指導要領には、小・中・高等学校いずれにおいてもオリンピックに関連する記述が見られます。

このような現状の中で、平成28年1月に、船橋市立海神中学校の2年生を対象に、JOCオリンピック教室を実施する予定です。中学3年生から保健体育における体育理論の学習が始まるので、その前の準備として、取り組んでいきます。

また、来年度以降は、これを広げて、実施することを検討してまいります。

最後に、課題としましては、オリンピック・パラリンピックが終わった後に、どのようにオリンピック・ムーブメントの推進をしていくのかとなります。

想定される場面としては、学校体育における、小・中・高等学校や小中体連、高体連の活動との関わり。競技スポーツにおける、強化事業や競技会、講習会での関わり。生涯スポーツにおける、総合型地域スポーツクラブのイベントや指導者講習会での関わり、などが考えられます。

オリンピック教室の展開について、また、その後のオリンピック・ムーブメントの推進について、各委員からの御意見をいただいて、今後の施策に反映できればと考えております。

議長 ただ今のオリンピック教室の展開について、御意見はございますか。

委員 オリンピック教室は、あれだけ有名な選手が多く出ています。とても千葉県だけでできるものではありません。全国の県ができることなのか、開催県だからできることなのか、まずはその辺の状況を最初に教えてください。

事務局 開催県ということは、特別には関係ありません。JOCとの連携事業の一環で、こちらからアプロー

チをするとそれに応じてJOCの方で対応してくれます。

委員 全国のほかの県でも多くやっていることなのですか。千葉県が率先してやっているものなのですか。どこでも同じようにやっているのですか。

事務局 県としてもやっておりますし、JOC側からのアプローチもあります。お互いの思惑が一致するということも実施するうえで必要になってくると思います。

委員 このオリンピック教室を実施している県は、今までにいくつぐらいあるのでしょうか。

事務局 今は、把握ができておりません。

議長 予算措置はどうなっているのですか。JOCで全てもってくれるのですか。

事務局 現在の状況ですと、今年度実施するものについてはJOCでもってくれることになっております。来年度からについては、検討している段階です。

委員 さすが、オリンピックはすごいなと思いました。選手たちは研修を受けているのでしょうけれど、競技が違って同じような授業を提供できる。そのような仕組みができていたのだと感じました。今、パラリンピック協会に同じようなことを求めても無理だとは思いますが、県内でも障害者スポーツ協会の事業として出前授業を行っています。僕も講師として何度も参加しているのですが、総合学習や人権教育になってしまうのですが、もっとパラリンピックにシフトした内容のものを提供したいです。その時に、千葉県内にもパラリンピアンがたくさんいますので、スポーツ協会の事業としてやった方がいいのかなと思います。検討をお願いします。

オリンピックとパラリンピックの特別強化指定選手がいます。県のお金を使って頑張っていると。その選手たちのPR方法を検討していたら教えてほしいです。

議長 千葉県で、パラリンピックでオリンピッククラスの選手は何人ぐらいいるのですか。

委員 陸上以外は把握していませんが、全体で40名ぐらいが特別強化指定を受けています。その全てがパラリンピックに出ることは厳しいですが、テニスの国枝選手ですとか、千葉市では車いすのバスケットとラグビーに力を入れてやっていくとのこと。これからどんどん出てくるのではと思っております。彼らは、あこがれの存在になっていくと思います。

議長 国枝選手は、千葉県の選手としてやっているのですか。

委員 そうですね。

委員 オリンピック開催後の話になるのですが、今回、千葉県の幕張メッセで競技が開催されます。キャンプ誘致の話もあります。実際にそのような場所で、このような事業を行うことはとても魅力的だと思います。我々もプロスポーツとしてやっていますが、試合開催日以外でも、子どもたちがマリニフィールドで野球をやると目を輝かせるのですね。オリンピックの本会場となれば、世界的にもピックアップされる場所となりますので、そのような場所を活用した子どもたちへのスポーツ教育をぜひ検討してほしいと思います。メッセもそうですし、オリンピックから離れてしまいましたが、サッカー協会も施設をつくるという話も出ております。ぜひ、有効活用してほしいと思います。

議長 時間が来ましたので、オリンピック教室についてはこの辺でしめさせていただきます。これ以外でございますか。

議長 ないようですので、私の任を解かせていただきます。進行を事務局にお返しします。

事務局 長時間にわたり、進行していただき、荒川会長ありがとうございました。
また、委員のみなさま方、貴重な御意見をいただきましてありがとうございました。本日いただきました、御意見等を踏まえまして、アンケート及び今年度の事業を執り行いました結果をまとめて、次回の審議会で報告させていただきます。

事務局 第12次の千葉県体育スポーツ推進計画についての事務連絡をいたします。この計画は、平成29年から33年、5年間の計画となります。計画の進行中に平成32年のオリンピック・パラリンピックが開催されます。さらに、その後に、1年ありますので、オリンピック・パラリンピックの開催を契機とした選手強化や環境整備、それを活用した教育の在り方などもあります。本日いただいた意見をもとにしながら、この計画の策定を進めていきたいと思っております。3月には、骨子や柱を説明できるようにしていきたいと思っております。体育課だけでは難しい問題ですので、現在のワーキンググループをベースにプロジェクトチームを編成して当たっていきたいと思っております。来年度は、審議会を3回程度開催することになると思っております。また、決まりましたら御連絡いたします。

事務局 次回、第2回の審議会は、来年3月8日（火）を予定しております。なお、場所については、スポーツ科学センターで行う予定ですので、よろしく申し上げます。
2月上旬までには、改めて文書にて御案内をさせていただきます。
それでは、最後になりますが、梅木次長から、お礼を申し上げます。

次長 今日は、皆様から御意見をいただきましてありがとうございました。最初に、施策を総合的・横断的にと申し上げたのですが、できるだけ県民の皆様の視点で施策を進めていきたいと思っております。
それからもう一つ、前回の東京オリンピックの時、ちょうど私は小学生でした。今日もオリンピック関連のことが多く取り上げられましたが、今でもその記憶が鮮烈に残っております。それによってスポーツに対する理解も深まりますし、いろいろな競技の人口が増えるということもありました。今回、オリンピックがこの千葉県でも開催地になっているということもありますので、子どもたちや保護者、あるいは県民の方に対して周知し、スポーツに対する理解を深めてということで考えております。皆さん、それぞれのお立場から、引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

事務局 それでは、以上をもちまして、本日の審議会の全てを終了いたします。たくさんの貴重な御意見、誠にありがとうございました。